

白門四八会

中央大学学員会白門48会会報33号
(題字:故 中央大学総長 高木友之助先生)

33

発行日:令和4年1月1日
発行人:榎本真一
発行所:中央大学学員会白門48会
東京都千代田区一ツ橋2-6-3
一ツ橋ビル4階 中央大学学員会事務局
TEL:03-6261-1615
印刷所:(株)ディスカバリー

三長制を廃止! 最後の総長として大学史に名を残す

2014年秋、中央大学総長・学長に就任して以来、7年間に亘り大学トップの重責を担ってきた酒井正三郎商学部教授が2021年10月14日、任期を終え退任された。

就任から3年余の前半は学長・総長を兼任、後半の3年余は総長として学校法人の改革に取り組んでこられた(本稿では敬称を「総長」と統一して記述を進める)。



法服を着て式辞を述べる酒井総長・学長

酒井総長の功績は、何といても創立130周年に合わせた「CHUO VISION 2025」の策定と、その推進である。法学部の都心回帰を決定づけ、グローバル化を推進する新学部を創設、多摩キャンパスの充実にも手腕を振るわれた。

大学は酒井総長退任を機に、これらの事業をより強力に進め



退任にあたっては花束贈呈

一方、酒井総長は昭和48年卒業の同期生でもあり、白門四八会の会員として幹事を務めてく

ださりと、会員との交流にも積極的に参加された。

四八会としては、総長が学長を兼ねて就任した時、盛大な祝賀会を催し激励と祝意を伝えた。その後は総会や新年会への度々の出席、白門レガッタでのボート乗艇、熊野への旅行等々、多忙を極める中で四八会への配慮は並々ならぬものがあつた。

退任にあたっては、会長・前会長・副会長・幹事長が総長室を表敬訪問した。また、オンラインではあつたが、慰労会を実施



ミニ慰労会での記念品贈呈

ていくため、理事長・総長・学長の「三長制」を廃止し、法人は理事長が、教学は学長がトップを務める体制に改めることとした。そのため、酒井総長は最後の総長として中大史に名を留めることになる。



退任当日の表敬訪問

(編集部)

会長挨拶

酒井総長の功績を讃えて

白門四八会会長

榎本 真一



会員の皆様、こんにちは。白門四八会会長の榎本です。

会報33号を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大で社会・経済活動がかなり制限され、当四八会でも総会をオンラインで開催するなど、顔を合せての行事を自粛せざるを得ませんでした。

そんな中、会報も掲載すべき事柄が少なく、発行を躊躇する声があがり、オンラインでの幹事会での諸否を検討しました。

すると「こんな状況だからこそ、全国各地の会員の皆さんに向けて、どっこい四八会は生きている」というメッセージを届けるべきだ」との意見が多数出され、このような誌面をお届け

けることになりました。

一面でご案内したように、今秋10月に中央大学総長の任期を終え退任することになった四八会会員の酒井正三郎総長は、総長・学長の兼任期間を含め7年の長きに亘り、母校中央大学の発展に貢献されました。その最大の功績は「CHUO VISION 2025」の策定とその推進であります。法学部の都心移転や、新学部創設、多摩キャンパスの充実など、この事業により大学改革は劇的な展開を見せ、社会的な注目を浴び、その評価を高めました。

当会報では、そんな酒井総長への功績を讃える言葉やねぎらいの言葉を集め、特集として組むという企画案が採用されました。酒井総長と関わりのあった全国各地の会員たちからメッセージを寄せていただき、当会と共にあった総長の7年間を振り返ってみます。

そのほかにも、総会議案の報告や、オンライン・ホームカミングデー、熱き駅伝応援、また定例のコナーや、トピックスも載せていますので、最後のページまでじっくりとお目通しください。

特集

お疲れ様！ 酒井総長へのメッセージ

酒井総長の思い出

静岡市在住

石川 哲矢
(商卒)

酒井さん、7年間の総長・学長お疲れ様でした。さぞかしご心労が絶えなかったことと思います。

さて、50年前の記憶をたどってみると、酒井さんとの出会いは、商ゼミ連(商学部ゼミナール連合)での活動だったかと思えます。確か、彼は江副ゼミ、私は(井沢君も)大島ゼミだったと思います。私は、バイト・



総長・学長就任を祝う会での挨拶

マージャン・学生運動に明け暮れ、まともな学生生活とは言えないものでした。が、彼は学究肌で冷静沈着、いたってまじめな人だったと感じました。その後(20年くらい)、一度何人かで飲んだ時、大学に在籍しているとは聞きましたが、まだ教授

にはなっていないかと思えます。

7年前、突然総長就任の報を聞いたとき、私たち白門四八会の仲間から選任されるとは、正直まさかと思ひ、私事のように喜びました。

今後は、少しのんびりし、名誉教授としてご活躍されることを期待します。(白門四八会幹事)

重職、お疲れ様でした！

植野妙実子
(法卒)

酒井正三郎先生、長きにわた

る総長職お疲れ様でした。

私が大学院公共政策研究科の教員だったときには特にいろいろとお世話になりました。厚くお礼申し上げます。大学院公共政策研究科は、官僚や政治家を育てるために設立された大学院です。残念ながら現在は廃止となってしまうましたが、私は今でもその意義は大きかったと思っています。日本は、先輩・後輩・同輩などそうした人脈の繋がりで動いているところがあります。四八会にも社会で活躍されている多くの方がいらっしゃいます。とても頼もしく

白門四八会会長

榎本 真一

(文学部卒)

白門四八会副会長

左居 康雄

(法学部卒)

白門四八会副会長

佐藤 豊

(経済学部卒)

白門四八会副会長

水野 勝敏

(商学部卒)

白門四八会副会長

島崎 修

(理工学部卒)

白門四八会副会長

川名 まゆみ

(文学部卒)

思っています。
酒井先生もご健勝にて、これ
からもますますご活躍されます
ことを祈念いたします。

(中央大学名誉教授・学員会
副会長・女性白門会支部長)

母校再生への 強い想い

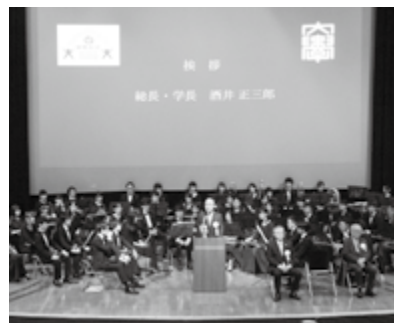
遠藤 利明
(法卒)

酒井さん、7年間に亘り母
校の総長・学長を務められた事
大変ご苦労様でした。

就任当初は、横浜山手高校の
問題で大学内が少々混乱した状
態でしたが、酒井さんの人徳も
有り、少しずつ落ち着きを取り
戻し、また、一部学部の都内移
転など攻めの経営への転換を
図って、母校の評価向上に努力
されて来ました事、敬意を評し
ます。

その頃から、48年卒業の政治
評論家の田崎史郎さんや(株)ピア
の矢内さんなどと一緒に年に一
回ほど懇談の機会を得ましたが、
穏やかそうの中にもいつも母校
再生への大変強い想いを、私達
は頼もしく感じておりました。
今後は健康が一番ですが、母校
のために引き続きご奮闘を期待
しております。

(衆議院議員)



常に大学トップとして演壇に立つ酒井総長

酒井総長との 最高の思い出

川瀬 俊吉
(理工卒)

総長・学長は何が大変で何が
ご苦労なのか全く想像が付きま
せん。でも7年間にわたり重責
職務を全うされまして本当にお
疲れ様でした。そしてありがと
うございました。

酒井先生に感謝申し上げるこ
とと言えば、2018年11月9
日(金)10時30分、北海道函館
市の隣町七飯町の町長を総長室
で酒井総長にご紹介させて頂い
たことを思い出します。毎年
の四八会総会で、私の生まれ故郷
七飯町にあり日本新三景の一つ
でもある大沼国定公園の大沼観
光大使をしていることで、ポス
ターを貼らせて頂き、PRの時
間も頂いておりました。事の発
端は白門四八会総会の席で酒井
総長に大沼国定公園の四季折々

のカレンダーをプレゼントさせ
て頂き、ポスター共々総長室に
貼って頂いたのが始まりです。

大沼国定公園では川崎フロン
ターレが強化合宿を行ってお
り、2021年もエディオン・
京セラ・デンソー等の女子陸上
部、男性チームで言えばGMO
アスリート、NIT西日本等々
多くのチームが合宿を行って
おります。ある時、地元の町長か
ら電話があり、中大の総長が同
期生であるとのこと、是非大学
チームも誘致したいので紹介し
て欲しいとのことが出発した。
私もどうなるかも分からず、ま
ず電話してみようと恐る恐るし
たところ、町長のご都合をお知
らせ頂ければ調整しますとの心
暖まるご返事に心躍るような気
持ちで一杯でした。そして実現
し町長・観光従事者はじめ多く
の方々喜んで頂くことができました。

2021年11月帰省の折、町
長にお会いし総長の退任の事を
お伝えしました。酒井総長には
くれぐれもよろしくお伝えくだ
さいとの伝言を頂きました。遅
くなりましたがこの席をお借り
しお伝えさせて頂きます。酒井
先生！最高の思い出です。感
謝！感謝！です。ありがと
うございました。

(白門四八会副幹事長・
大沼観光大使)

中大人らしい 飾らないお人柄

國領 義男
(経済卒)

酒井さん、先ずは長い間にわ
たつての重責、お疲れ様でした。
私は酒井さんとは「白門四八
会」を通じて誼をいただきました
が、それまでは失礼ながら酒
井さんのことはほとんど存じま
せんでした。

「白門四八会」の中で酒井さ
んと少しずつ接する中で、母校
の総長、学長という重責を務
められているのに、謙虚で飾
らないお人柄は正に「中大人ら
しい」方だなと敬服すると同時
に、「同期の中にこんな素晴ら
しい人がいるんだ」という誇り
も持っております。

法学部の都心回帰を始めとし
て、母校がこれから大きく変わ
ろうとする重要な時に重責を
担ってこられたことは我々には
計り知れないご苦労があったの
ではないでしょうか。

そうした中でこれまでは殆ど
プライベートな時間を持ってな
かったことと推察いたしますが、
総長を退任され、今後はご自分
のために(奥様始めご家族を含
めて)良い時間を過ごされるこ
とを願っております。

酒井総長、お疲れ様でした。
(白門四八会会計監査)

白門四八会幹事長

佐藤 愛子
(文学部卒)

白門四八会副幹事長

三森 孝悦
(理工学部卒)

白門四八会副幹事長

長谷川 孝雄
(理工学部卒)

白門四八会副幹事長

江川 修司
(商学部卒)

白門四八会副幹事長

坂本 賢一
(経済学部卒)

白門四八会副幹事長

川瀬 俊吉
(理工学部卒)

酒井総長への感謝

小林 秀男
(文卒)

2014年11月より7年間、酒井総長ありがとうございました。白門四八会から中央大学総長・学長という重責に立たれた方がいらっしやることは私たちの喜びです。

私は中央大学事務職員として働いていましたが、酒井総長との接点は殆どありませんでした。多摩キャンパス1号館内の廊下や、ペDESTリアンデッキなどで出会った時、挨拶のお辞儀をしたことがある程度です。会話はしませんでした。20数年前、白門四八会を通じて酒井正三郎商学部教授に出会い同年代であることが分かりました。

総長・学長の在任期間には、2023年4月から法学部の授業が文京区茗荷谷で都心展開する方向性や、2019年度に創設した国際経営学部と国際情報学部の構想に関わられたことと
思います。中央大学の伝統を持続させ、さらに発展するよう導かれたことに感謝いたします。今後も名誉教授として活躍されることを期待しています。ありがとうございました。

(白門四八会幹事)

同期の誇り 酒井総長への想い

坂本 賢一
(経済学卒)

酒井先生との出会いは、くしくも箱根駅伝の応援後の夜の懇親会の席であった。当時既に商学部長として重責を担っておられたが、二次会のカラオケにも気さくに参加され、楽しい一時を過ごせたのを今も鮮明に覚えている。

先生は、ある意味中央ルネッサンスの旗手ではないかと思っている。総長を7年勤められ、この間法学部の都心展開や国際経営学部等二つの新学部の創設など一層の国際化の推進を果たされ、白門中央の存在感を再興いただいたものと確信している。この間の中央復活への道のりは決して容易なものではなかった筈であるが、常に真摯な姿勢で粘り強く物事に真正面から挑戦する姿を拝見するにつけ尊敬の念が増して行った。



総長も駆けつけた箱根駅伝予選会

学際部門に限らず箱根に象徴される駅伝や、野球、バレーボールなどのスポーツ部門でもその復活傾向は明かなものになりつつある。酒井総長の果たされた業績は、まさに「栄えある歴史」となって襷の様にしっかりと後世に受け継がれて行くものと思う。

2014年12月開催した酒井先生の総長学長ご就任の祝宴です。その年は奇しくも私が四八会の幹事長をお引き受けした年でもあり、この祝宴が大きな初仕事になりました。会員以外にも地方からも含め参加者は30名をこえる大盛会となり、自分にとっても中央大学を代表する方の慣れない祝宴で、失礼がないようにと様々な準備に大変緊張していたことが蘇ります。その時の酒井総長学長に花束を渡す写真が残っていますが、二人ともあの頃は若かったなあ感慨深いものがありますね(笑)。

酒井総長との 様々な想い出

佐藤 愛子
(文卒)

酒井先生、7年間の重責大変お疲れ様でした。中央大学総長学長職の内外的な想像も出来ない様々なご尽力に本当に頭が下がります。

四八会の歴史でも数限りなくある先生との想い出の中で特に記憶に残っていることは、



就任を祝う会での花束贈呈



熊野へ向かう車中で

白門四八会常任幹事

井 沢 和 夫
(商学部卒)

白門四八会常任幹事

小 田 眞 一
(商学部卒)

白門四八会常任理事

金 子 健 治
(法学部卒)

白門四八会常任幹事

菊 田 和 行
(法学部卒)

白門四八会常任幹事

酒 井 正 三 郎
(商学部卒)

白門四八会常任幹事

佐 山 洋 一
(経済学部卒)

記憶する必要がない会食

田崎史郎
(法卒)

仕事柄、会食は重要な取材の機会だから、食事しながら相手の話のポイントを頭の中でメモしている。記憶する必要がない会食はめつたにない。その数少ない会食の一つが酒井正三郎さんらとの会食である。音頭を取ってくださったのは、びあ株式会社

の創業者であり代表取締役社長の矢内廣さんだった。矢内さんが東京五輪・パラリンピック担当大臣に就任した遠藤利明衆院議員、酒井さん、私と連絡を取ってくださった。この4人の共通点は昭和48年に中央大学を卒業したというだけで、

遠藤さんとも取材しているうちに中大同期と知った。テレビ番組で一緒にした時、遠藤さんが「お互い、面識がなかった。私はラグビー、田崎さんは学生運動をやっていたからだろう」と紹介された。

それぞれの道を極めながら、企業経営者で評価されているのは矢内さんだ。矢内さんは在学中の1972年7月、映画などのエンタテインメント情報を網羅した月刊情報誌「びあ」を創刊した。政治の世界では、遠藤

さんが2021年9月、自民党四役の一角を占める選挙対策委員長に就任された。SP(警視庁警護官)が付き、警察に守られているのは遠藤さんだけだ。もちろん、酒井さんは大学組織で最高位に就かれた。

この4人が集まって何を話していたか、よく覚えていない。でも、同じ年に卒業して、それぞれの道を歩み、たまに会って談論風発の機会を得る。ありがたいことだ。

(政治ジャーナリスト)

酒井総長、お疲れさま

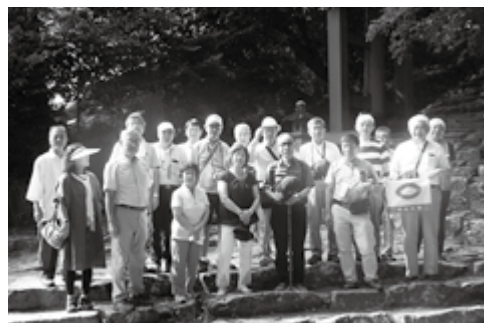
新倉利明
(経済学)

酒井正三郎総長、7年間総長の重責お疲れさまでした。

酒井総長が商学部長当時、四八会の箱根駅伝定点場所の大会へアピンカーブ応援団に参加していたのが、初対面であったかと記憶しております。

スポーツ振興に関しては当時から「限られたスポーツ推薦枠をより戦略的に考えるべき」との持論を承り、大いに賛同したものです。

また令和元年9月には酒井総長と左居四八会副会長を中心に熊野古道ツアーを企画して頂き、大変楽しく有意義な時を過ごすことができました。改めてお礼



熊野旅行の仲間とともに

申し上げます。

熊野三山への祈願もあり第96回、97回と箱根駅伝予選会突破が叶いましたが、第98回は本戦でシード権確保と行きたいところです。

酒井総長におかれては今後とも名誉教授というお立場から大所高所からの中央大学へのご提言を期待している次第です。

(白門四八会常任幹事)

漕艇への誘い

長谷川孝雄
(理工学)

2014年に戸田ボートコースで開催された第5回白門レガッタに、酒井先生が大会名誉会長としてご臨席なさいました。我々、四八会メンバーも有志でチームを結成して2年程前から参加していましたが、成績は惨憺たるものでした。この大会で



白門レガッタでボートを漕ぐ総長(左端)

はまずまずの結果でしたが、それ以上に先生のご来訪は同期として嬉しく誇らしい思いでした。

その直後、12月に開催された先生の「新総長・学長就任を祝う会」の二次会では、先生の「ボート競技は幾つになってもできる。来年の白門レガッタには是非参加したい」発言など大いに盛り上がり、翌年の白門レガッタには先生を中心としたメンバーによる2チームが結成され、継続して参加してまいりました。

在任中は自由な時間も少なかった事と思いますが、時間的余裕が出来ましたら月に1〜2回程度のボート練習にも参加しては如何でしょうか。先生のお言葉の「ボート競技は年相応のレースが出来るスポーツ」をご自身で体験するためにも。

(白門四八会副幹事)

白門四八会常任幹事

新倉利明

(経済学部卒)

白門四八会常任幹事

藤野美知子

(文学部卒)

白門四八会常任幹事

宮崎謙一

(法学部卒)

白門四八会常任幹事

山口隆司

(理工学部卒)

白門四八会常任幹事

山下三雄

(理工学部卒)

白門四八会常任幹事

横田利久

(商学部卒)

飛躍あれ、中央大学 総長退任感謝の言葉

橋本 博
(経済学)

私たち白門四八会生は、激動の昭和の時代に大学生として青春を謳歌し今の時代では到底考えられない貴重な体験をした同期生であります。大学入試は学生運動まっ唯中、本学に立ち入ることもできず営々として先輩方が築かれた学び舎を知ることもなく、合格通知を受け取るが生涯最後である入学式もないままに夏を迎えるところに授業が開始された。運動部所属であった小生は、練習に明け暮れ学友は水泳部員のみ、いつの間にか中央大学学生として日本学生選手権大会出場、学内にも入ることなく中央大学代表として戦いに臨んだことを思い出す。

大学学生、卒業生の活躍は運動部卒業生として感謝に堪えませんが、その流れは、今年開催された東京オリンピック大会へ多くの中央大学関係者が出場し活躍をしたことにも伝統として受け継がれていることが確認できます。今後も各運動部は感謝と共にさらなるインカレ優勝、日本選手権優勝と高い目標を掲げ、世界へと羽ばたいていくことを確信しています。余録ですが四八会同期生オリンピック出場選手は中央大学で一番多い年代です。陸上福岡美千代さん、レスリング鶴田友美君、鎌田誠君、ハンドボール花輪博君、佐々木健一君、バスケットボール結城昭二君、水球橋本博、入学時より同期生として互いの努力の結果であり誇りに感じます。中大スポーツ紙で確認できます。参考までに。

私事ではありますが卒業し九州と東京であるが、遠く離れることもなく酒井正三郎水泳部部長



総会での総長挨拶

長時代に教え子が水泳部員として数人入学し、母校中大の榮譽のために活躍してくれたことは何かの縁があったのかと思ひ返し感慨深いものがあります。また、学生時代海外遠征続きで授業欠席ばかりであった小生の話を聞き、「お父さんの受けることのできなかつた授業の分、私が受けてくる」と娘が中央大学法学部へ進学したことにより父母連絡会会長、商議員の役をいただき自分の在学当時より大学に登校し深くかわっていました。今年度は、学員体育会評議員の役をいただき遠い九州より各運動部へ活躍が期待される高校優秀選手紹介を考慮しています。

酒井正三郎総長・学長の在職時代に運動部へ暖かい配慮いただいたことは各運動部の今の活躍へとつながったことは間違いなく、卒業生として感謝に堪えません。

「飛躍あれ、中央大学」ますますの活躍を期待しています。
(白門四八会九州支部長・学員体育会評議員)

酒井正三郎総長 7年間ご苦勞様でした

三澤 壯義
(商卒)

酒井正三郎総長7年間中央大

学のため大任を果たされ、本当にご苦勞様でした。

酒井さんとは白門四八会で初めてお会いしました。私の地元の宮城県立佐沼高校出身で、また私と同期であることを知り、大変うれしくまた誇りに思いました。

佐沼高校は、著名人を多数輩出しています。漫画家の石ノ森章太郎氏、パリで活躍した造作家のサトル・サトウ氏、駐イラク大使の片倉邦雄氏、積水ハウス社長阿部俊則氏、野球解説者の佐々木信行氏、私の友人でもあるシンガーソングライターの熊谷金治氏などです。

学員会の宮城県支部会には毎回出席され、先輩、後輩とも親しく懇談していただきました。

中央大学はほんとうにまじめな学生が多く、社会に出て活躍されている方が大勢います。後輩たちが社会でまたグローバルな活動をして、日本の国のために貢献されることを祈念しています。(白門四八会東北支部長)

思い出

水野 勝敏
(商卒)

酒井総長との出会いは、学生が運営する商学部ゼミナール連合会(通称商ゼミ連)だったと思う。四八会の会員でいえば石川君、井沢君、萩原君、初代幹

白門四八会関西支部長

黒羽 一 記
(文学部卒)

白門四八会東北支部長

三澤 壯 義
(商学部卒)

白門四八会九州支部長

橋 本 博
(経済学部卒)

白門四八会会計監査

東海林 正
(法学部卒)

白門四八会会計監査

國 領 義 男
(経済学部卒)



就任翌年の48会総会で

事長の横田君もここで知り合った。

入学当初はロックアウトでゼミくらいしか友人をつくる場はなく必ず出席していた。おかげで友人はたくさんでき、同時に麻雀仲間も増えていった。

勿論ゼミ・商ゼミ連を純粹に学術研究の場としているグループもあり、酒井君(あえてこう呼ばせてもらう。昔はお互い呼び捨てだったから)や四八会のリモート会議に最近参加されたと聞く元群馬大学教授の山田君もこちら。

四八会の総会に出る都度、他の年次支部の来賓の方々からの酒井君の評判が頗る良く、嬉しく誇らしかった。佐藤幹事長のインタビュで座右の銘が「上善如水」と聞き納得。頭脳明晰な人間にありがちな上から目線鼻につく物言いは一切なく、誠実そのものの顔そのまま。

麻雀ばかりやっていてレポ-



48会に揮毫してくれた色紙

ト試験のおかげでようやく卒業証書を手に入れたグループと、一所懸命勉強し多くが大学教授になったグループ(ゼミの先輩も含め4人)が親しく学生生活を送れた商ゼミ連という組織に感謝。

(白門四八会副会長)

酒井総長に感謝

三橋 隆
(文筆)

大任を果たされました酒井先生に満腔の感謝と敬意を表します。

今後のいっそうのお幸せとご長寿を祈念し、僭越ですが、次の拙句を記させていただきます。

白門の功勞の宝友(とも)ご長寿を

(白門四八会俳句同好会会長)

酒井総長への メッセージ

三森 孝悦
(理工筆)

「酒井総長へのメッセージ」をとの依頼を受けて最初に思ったのは、2014年の秋に「今度同級生の酒井さんが中央大学第27代学長及び総長になられるんだよ」と、水野さんから聞いたときに、我々同級生にそのような方がいらしたんだ!と少し誇らしげに思い、更に商学部出身と聞き、私は理工学部出身



気軽に記念撮影に応じる総長

だったので、所詮この大学は法学部出身者が主要ポストをおさえて居るのだろうと思っていたこともあって、大学への思いは一変しました。

その後、市ヶ谷グランドヒルで、白門四八会として支援決定大会が開催され、学長職兼任は4年で終えられました。その後も総長として活躍されるのを、四八会を通して支援させていたかったです。

その間四八会のホームカミングデー等での活動にも協力頂き、我が仲間としての「総長」を身近に感じたものでした。

しかし、酒井総長は何といっても中大が国際化を図るべく新学部を、尽力をつくして創設され、グローバルキャンパス化に邁進された功績は大きく、カレッジの発展的なイメージの



仲間と歩いた熊野古道

大学から早・慶並みのユニバシティに歩ませていただいたことは中大の将来を鑑みると、私は「ご尽力、有難うございました!」と申し上げたく思います。

これからは、少しはお時間に余裕が出てきましたら、2019年にご一緒した「熊野古道」のような四八会メンバーとのテーマを持った旅などにもご参加頂き共に歩んでゆきたく思います。

(白門四八会副幹事長)

形ある成果

宮崎 謙一
(法筆)

中央大学をとりまく困難な時期に、7年間に亘り総長・学長として教学トップと学校法人経営の職務を見事に果たされたこと、お疲れ様としか言いようがありません。

おそらく、学内および学外からも沸き起こる議論への対応等々、しんどい思いをされたであろうことは想像に難くありま



新年会にも度々参加

せん。でも、形あるものとしてその成果を示されました。残されたのは、引き継いだ人々がこれをいかに外に発信し、具体的に中大のさらなる発展に繋げるかだと思えます。

昔、ゼミの恩師がよく「中大(生)は学問でもスポーツでも優秀な実績を残しているのに宣伝がヘタなんだよなあ」と言っておられました。

このことは、後進者の宿題として残っている気がします。実学でも理論学でもスポーツでも、もっと実力・実績に見合った社会評価を受ける大学であって欲しい。これが我々OBの偽らざる気持ちだと思います。

そして、酒井前総長がその発展への礎を築かれたことは、四八会同期の誇りです。

(白門四八会常任幹事)

酒井総長 退任に寄せて

山口隆司
(理工系)

私と酒井総長との初対面は、7年前の総長・学長就任時の四八会主催祝賀会で、その柔和な性格と滑らかな語り口に魅了された時と記憶しています。当時私は会長になった年でもあり奇妙な縁とともに、勝手ながらそれを誇りに(今でも)していました。その後は多忙な中、我々四八会の総会、懇親会などに積極的に参加していただき、他支部からは羨望の眼差しを向けられていました。就任後の実績では新学部創設、都心移転、新校舎建設等枚挙に暇がないほどで、これまでの中央大学の性格(?)を一変させたのではないのでしょうか。

その酒井総長を本当に近く感じたのは、白門レガッタへの



2次会でもつき合いのよい酒井総長

参加と熊野古道ツアーです。白門レガッタでは我々クルーの一員として必死にボートを漕ぎ、そのごつくばらんな親しみ易さで中大ボート部一同をも魅了してしまい、熊野古道ツアーでは二泊三日を共にして熊野参拝、温泉と酒宴等その人柄に触れることができました。

在任の7年間本当にお疲れさまでした。これからはお互い健康に留意しながらの長いお付き合いをお願いできればと思っています。

(白門四八会常任理事)

酒井総長退任への メッセージ

山下三雄
(理工系)

7年間の長きにわたる学長・総長としてのお務め、誠にご苦勞様でした。今後のわが愛する中央大学の将来に向けての展望を開く重要な転換期に当たって、その将来像を明確に指示していただいたことに対して心から敬服しております。

私が白門四八会に参加したのはごく最近になってからで、酒井総長と個人的にお話しさせていただいたのは、3年前の白門レガッタにおける戸田漕艇場の事務所でありました。総長が午後のレースには仕事の関係で参加できないためその場で代役と

して私にご指名がっかり、生まれて初めてボートを漕ぎ何とか午前の成績を維持させていただき面目を保つことができました。現在私は中大技術士会において、中央大学研究開発機構の石川教授のご指導のもと「グリーン・インフラ勉強会」を立ち上げるべく準備しております。岸田新政権の政策に「グリーン&カーボンニュートラル」があります。初めは後楽園校舎1号館の建替えに伴う、グリーン・インフラの導入について考えていきたいと思っています。大規模都市開発事業における公園・緑地の設計をしたことはありますが、系統立てて勉強したことがありません。今後の人生のほぼ最後の研究課題としていくつもりです。今後の先生の更なるご活躍を祈念するとともに、ご指導・ご鞭撻をいただきたくお願い申し上げます。

(白門四八会常任幹事)



南紀の夜・男ばかりの宴会で

心温かきアンカー

山田博文
(商学)

我が青春時代の大学は活気に満ちていた。キャンパスのあちこちで集会・サークル・自主ゼミが開催された。そんな時代に、江副ゼミの酒井正三郎さんと石原ゼミの私は出会った。商学部ゼミナール連合の大会の壇上、論旨明快で説得力のある報告をする学生がいた。それが酒井くんであった。今もその姿は脳裏に残る。場所は4号館の大教室だった。

あれから半世紀。母校に縁のなかつた私は、最初の研究職の場を大阪に求め、その後、青森県、群馬県と漂流してきた。母校に留まった酒井くんは、旅立った者にとつてのアンカーだった。ただ、このアンカー、旅立ち先まできて親交を深めてくれた。

学長や総長といったマネジメントを7年間も全うしてきた人望は、心温かきアンカーだからなのかも知れない。とまれ、激職から解放された酒井くんの健康を祈念し、「たいへんお疲れ様でした」という言葉以外に贈るべき言葉が見つからない。

(群馬大学名誉教授)

酒井総長との 出会いと感動

瀬川 徹
(法学)

酒井先生、7年間に亘り総長並びに学長の重責を担われその任を見事に果たされての退任に對し衷心より感謝と慰勞を申し上げます。

私が酒井先生のお姿を最初に拝見したのは評議員会でした。その後、私が学員会の役員、又、四八会の仲間としてお会いするうちに、同郷の宮城県出身であることを知り、更なる親しみを感じた次第です。

酒井先生のご功績は学者としての優秀さのみならず大学の未来に向けた英知と情熱を実行に移されたことにあると思います。多摩と都心の2大キャンパスの整備を実行に移されたことは、我が母校の歴史に残る大偉業として後世に語られると思います。と同時に、その酒井先生が四八会の仲間として忌憚のないお付き合いを頂ける関係は、私たちにとつても誇りです。

これからは、今まで以上に、同期の仲間として一緒に楽しみましょう。

(弁護士・白門四八会幹事)

別表1

2020年度 決算報告、監査報告

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
会費	359,000	事業費	220,500
119名分 (3000円×118名+5000円×1名)	359,000	会報作成費(31号)	194,100
		ホーム・ジ維持管理費	26,400
		総会バナー費(懇親・二次会)	0
臨時会費	0	総会経費(賞品代他)	0
総会懇親会参加費	0	新年会バナー費(懇親・二次会)	0
総会二次会参加費	0		
新年会参加費	0		
新年会二次会参加費	0		
		渉外費	0
寄付金・税金	0	年次支部協議会	0
税金	0	他支部総会等税金	0
寄付金	0		
		郵便費	0
広告料	10,000	電報代	0
名刺広告(@5000×2)	10,000		
		広告宣伝費	0
学員支部補助金	100,000	ホーム・ジバナー費	0
支部活動補助金	100,000		
		雑費	129,771
雑収入	0	文具・消耗品代	15,423
		通信運賃費	86,952
		振込手数料	2,310
		徴収料金・郵送通知料	25,086
預貯金利息	2		
当年度収入 計	469,002	当年度支出 計	350,271
前年度繰越金	1,168,231	次年度繰越金	1,286,962
合 計	1,637,233	合 計	1,637,233

繰上金明細	金額
日本郵便	884,033
三井住友	402,929
現金	0
合 計	1,286,962

2021年6月12日	榎本 真一
白門48会会長	
2021年5月20日	水野 勝敏
会計部会副幹事長	
2021年5月20日	東海林 正
会計監査	
2021年5月20日	國領 義男
会計監査	

別表2

2021年度 役員人事

会 長	榎本 真一(文学部)
副 会 長	左居 康雄(法学部)
	佐藤 豊(経済学部)
	水野 勝敏(商学部:会計部会兼務)
	島崎 修(理工学部)
	川名まゆみ(文学部)
幹 事 長	佐藤 愛子(文学部)
副幹事長	三森 孝悦(理工学部:事業部会)
	長谷川孝雄(理工学部:事務局)
	江川 修司(商学部:会計部会)
	川瀬 俊吉(理工学部:広報部会)
	坂本 賢一(経済学部:ホームページ)
常任幹事	井沢和夫(商学部)、小田眞一(商学部)、金子健治(法学部)、菊田和行(法学部)、酒井正三郎(商学部)、佐山洋一(経済学部)、新倉利明(経済学部)、藤野美知子(文学部)、宮崎謙一(法学部)、山口隆司(理工学部)、山下三雄(理工学部)、横田利久(商学部)
地方支部	黒羽一記(文学部:関西支部長)
	三澤壯義(商学部:東北支部長)
	橋本 博(経済学部:九州支部長)
会計監査	東海林 正(法学部)
	國領義男(経済学部)

白門48会第23回総会
をオンラインで開催

白門四八会は、第23回通常総会を令和3年6月12日16時よりオンラインで開催しました。

総会・懇親会を合わせた参加者は25名。四八会員で中央大学総長の酒井正三郎先生をはじめ、遠くは青森、宮崎、奈良、京都、静岡、茨城ほかからの参加もあり、リモートの恩恵を受けることができました。

総会は、榎本会長の挨拶に続き議長金子健治氏を選出、第一号議案から第五号議案までを審議し、いずれも原案のとおり可決・承認されました。

第1号議案 2020年度事業報告

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各事業が中止・延期となりましたが、幹事会、懇親会はオンラインで開催。

第2号議案 2020年度決算報告、会計監査報告は別表1

第3号議案 2021年度事業計画(案)

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、通常の活動より縮小して行う(延期、中止等変更あり)。

1. 定時幹事会及び懇親会の開催
2. 会報32号・33号の発行(2021年5月・12月予定)
3. 支部行事並びに各種同好会活動(オンラインにて開催)
4. 第30回ホームカミングデーへの組織参加(10月末予定)
5. ホームページ更新(随時)
6. 新規会員の勧誘
7. 中央大学学生会他支部との交流
8. 学生スポーツ、文化活動支援(大学駅伝応援他)

第4号議案 2021年度予算(案)

今年度は大幅な事業縮小が見込まれるため通常より減額して計上。

第5号議案 役員・幹事人事(案)

2021年度役員候補者は別表2のとおり。今年度は役員選出協議が困難であり、事業等の実務を速やかに遂行するために、現体制を継続。但し広報担当の副幹事長に病欠の小林裕氏に代わって川瀬俊吉氏を推薦。常任幹事体制強化のため、酒井正三郎氏、井沢和夫氏、金子健治氏、新倉利明氏、横田利久氏の5名を追加推薦しました。

懇親会では祝電披露、酒井総長からの挨拶もいただき、地方からの参加者の近況などを聞くことができました。抽選会の景品は後日郵送の段取りで、オンラインでもそれなりの盛り上がり。最後はエルと応援歌の合唱で幕を閉じました。



オンライン総会モニター画面

第30回ホームカミングデーにオンラインで参加

コロナ禍にあつて昨年中止された第30回ホームカミングデーが、今年(令和3年)11月21日にオンラインで開催されました。四八会は、組織としてこの催しに参加、各人がそれぞれのネット環境で番組を視聴しました。

このコンテンツでは仮想空間での支部活動紹介を行っており、四八会も展示ブースを出しています。バーチャル空間上の室内展示「支部活動報告」。団体名・白門四八会支部、企画名・四八会の熱き駅伝応援。

関西・九州の3地方支部を持ち、20周年を迎えました。会の特徴は駅伝応援の熱さ。箱根大平台での横断幕と幟旗、お揃いの白いベンチコートが毎年全国に放映されます。旅行をはじめ多くのイベントを実施、HCDではカレーショップを出店しました。見逃した会員も、1年間はアーカイブとして閲覧することができます。

熱き駅伝応援は四八会の伝統

テレビで「箱根駅伝予選会」「全日本大学駅伝」を応援、リモートで祝勝会!

新型コロナウイルス感染拡大で、沿道での応援自粛を求められた大学駅伝。四八会はこれまで、沿道で声援を送るのを伝統にしてみました。今年もそれがかなわずそれぞれがテレビでの応援となりました。

10月23日に東京の立川陸上自衛隊駐屯地地周回コースで行われた箱根駅伝予選会では、予想に

たがわず中大チームは2位となり、10校に与えられる本戦出場権を獲得しました。

出場12名のうち、上位10名の合計タイムが10時間37分38秒で、1位の明治大学に続く好成績。予選突破となりました。

11月7日には第53回全日本大学駅伝対校選手権大会が愛知県伊勢神宮前前から三重県の伊勢神宮内宮前までの8区間106.8kmで開催されました。中大は久しくこの大会の出場から遠ざかっていましたが、今回は予選を通過し9大会ぶりの参加となりました。

保ち、シード圏内8位をめざし、7区中澤君、アンカー手島君の走りで見事8位入賞を果たしました。この結果を踏まえて行われた四八会のオンライン祝勝会は大変な盛り上がりで、「来年はぜひ伊勢路に練り出そう!」と怪気炎を上げました。

1区に起用された期待の吉居君は区間賞こそ取れなかったものの区間新記録を出し、復調を感じさせました。シューズ不適合による欠点も克服し、箱根本戦では素晴らしい走りを見せてくれるでしょう。2〜6区の選手たちも粘り強い走りです。

正月2日・3日には箱根駅伝本戦が行われます。沿道応援の自粛が求められています。四八会ではレース後のオンライン新年会で、シード権獲得を祝う予定となっています。皆さん、ぜひご参加を。

(井沢和夫)

シリーズ

中大体育連盟所属部会紹介 その2 バレーボール部

金子健治



(写真提供:中大スポーツ)

私は附属高校出身ですが在学当時のバレーボール部はインハイ・国体優勝等全国屈指の強豪校として知られ、その卒業生が中大に進学し主力として活躍、昭和40年から昭和44年まで当時の日本選手権五連覇を果たす等男子の中大、女子のニチボー貝塚・日立武蔵と称されたものです。

オリンピックにも数多くの名選手を輩出し、特に日本初で唯一の金メダルを獲得した昭和47年ミュンヘン大会には木村憲治・横田忠義・そして当時プリンスと言われた嶋岡健治各氏を送っています。全日本大学選手権では、最多となる15回の優勝を誇り、大学バレーボール界の名門校としての地位を確立しています。一時期低迷していた時期もありましたが、今や日本の至宝と言われ国内外で活躍する石川祐希選手の入学を機に、全日本大学選手権3連覇や関東大学リーグ優勝等かつての輝きを取り戻し、近年では常に上位を占めております。

代表には5名の卒業生を送り、現役選手にも今後それに続く有力選手もいます。このコロナ禍でリーグ戦等も無観客で行われるため、中々観戦の機会はないですが、関東大学リーグ戦は全試合ネット生配信をしていますので、是非ご覧頂ければと思います。

『ポトマックの桜』と中央大学との縁えにし

ワシントンD・Cの『ポトマックの桜』と中央大学とは少なからぬ縁えにしがある。
旅行作家の妹エリザは、米中央大学の前身「英吉利法律学校」の英米法講師として教鞭を執っていた兄ジョージを伝手つてに1884年に初来日したことが



ジョージ・シドモア



エリザ・シドモア

その契機となった。
エリザは兄の持つ外交官特権の恩恵を得て日本各地への旅を通じて見聞を広め、時には兄とともに米国代表として皇室行事にも参加している。エリザは四季折々に花を愛でる日本人の『心の文化』を知り体験した風

俳句コーナー

三橋 隆選たかし

秋天に陽冠淡き季となれり

榎本 真一(文卒)

〔評〕 秋晴れの空に太陽が穏やかな輝きを見せ、柔らかい日射をそそいでいる。夏の炎のような「コ罗纳」(陽冠)の太陽ではなく、涼しい秋風と共に太陽の輪が淡く感じられる。太陽の輝きの弱さから夏が過ぎ去り到来した秋の実感が、「季となれり」の直載な表現で強く伝わってくる。太陽の輝きの変化を通じて、夏から秋への移行として秋を体感し、「秋の季節」そのものを味わっている優れた句である。

陽冠とは「コ罗纳」の造語であり、掛け言葉として「新型コ罗纳ウィルス」も意味している。「コ罗纳感染が秋になつて収まってきた」ことが「陽冠淡き季となれり」に投影され、その喜びと安堵感もにじませている。
コ罗纳禍で停滞していた四八会の活動に、昔日の輝きが戻ってくることを期待も、この秀句にはこめられている。会長から会員に向けて「四八会の明るい見通し」を示唆する挨拶句でもある。

秋空に孫は子リスのごとく跳ね

坂本 賢一(経卒)

〔評〕 秋の澄み渡る青空の下、幼い子が跳び跳ねている。その幼子に「おいちゃん」と呼ばれ、慕われている慈顔の祖父(句作者)が見守っている。

平凡な日常生活の中で、お互いに通じ合うほほえましい幸せな一時の場面を詠み上げている。
「子リスのごとく跳ね」る様を通して、「躍動」や「希望」を想起させる春のように新鮮な「秋」を感じさせる。心が和み、いやされもする優れた句である。

病むことも生きる証しや根深汁

上原 秋雄(文卒)

〔評〕 年齢を重ね、老いることで病気になる、自分が「生身の人間」であることを実感することが多くなる。
たとえば胃が悪くなると胃が腹部にあることを痛感するようになる。言い換えれば「生きている実感」という「生き(て)いる証し」を体で感じるのである。
「根深汁」すなわち「ねぎの味噌汁」を冬にすりながら、病みつつも「生」を意識し生き抜くことを達観した、深い光彩を放つ秀句である。

秋雨や希有の横綱土俵去る
箱根路を見事手にしてもみじ見る
秋あかねゴルフボールにふと止まる
※秋あかね＝赤とんぼ
しみじみと色づくイチョウ仰ぎ見る
秋日和小さき幸の散歩かな
坂本 賢一
坂本 賢一
坂本 賢一
坂本 賢一
坂本 賢一
三橋 隆(文卒)

※よろしければ、お気軽にご投稿ください。



ポトマックの桜

俗を著作『日本・人力車旅情』で欧米に発信した。
特に墨田川・向島の桜並木の美しさに魅せられ1885年帰国後、ポトマック河畔に『墨堤の桜並木の再現を！』と夢見て24年に亘り当局に桜植樹を提案し続けた結果、1912年日本から3020本の桜苗木が寄贈され、同年3月27日に植樹式が行われ、爾来110年の歴史を有する『ポトマックの桜』は、日米友好の象徴として今も毎春咲き誇っている。

特筆すべきは、兄ジョージが講師をしていた同時代に、後の『米国華盛頓への櫻寄贈計画』を承認した外務大臣小村寿太郎も講師として在籍している。この決定から桜寄贈に繋がる。
中央大学を介した縁が様々な人との邂逅を経て『ポトマックの桜』に繋がったという史実があったことを伝えたい。

(左居康雄)

四八会ニューズ

商議員の改選

これまで、当会から選抜され就任していた佐藤豊副会長の学域法人中央大学商議員の任期が満了し、新たに候補者を推すこととなり、左居康雄副会長を後任に推薦したところ、9月22日、選任されたとの報告を受けました。左居副会長には今後4年間、商議員としてお努めいただくこととなります。

叙勲のお祝い

令和3年春の叙勲で、当会の林勘市幹事が法曹界における永年の功績を認められ旭日小綬章を受章されました。称賛・お祝い申し上げると同時に、会の名譽を高めていただいたことへ謝意を表します。

オンライン幹事会開催

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、役員・幹事が集まって審議することができません。令和2年からはZOOMを利用したオンライン幹事会・懇親会を実施し、第23回総会後も8月31日暑気払い、9月12日・10月12日・11月12日幹事会、10月23日箱根駅伝予選会懇親会、12月12日忘年会、と6回にわたりオンライン会合を行いました。

対面式で役員説明会実施

ネット環境を持たない役員に対しては、コロナ新規感染者が減少した頃を見計らって10月30日、学員会事務局会議室において、対面式で活動報告・説明会を行いました。



役員説明会後の懇親会

ホームページの更新

当会のホームページが更新されました。自主管理ができないため、更新のスピードが遅く、皆様にはご迷惑をお掛けしていましたが、この度自主管理の方法を探るべく検討を始めました。今後はより即時性を高めるため、努力してまいります。

計報

当会章創の頃からの会員で、大野野球応援に熱心だった工藤容幹事(法卒)が7月27日71歳にて永眠されました。総会・新年会などで見せた穏やかな笑顔が忘れられません。心よりお悔やみ申し上げます。

《会費納入についてのお願い》

会員の皆様には「白門48会」の活動に格別のご高配をいただき、厚くお礼申し上げます。

おかげさまをもちまして、白門48会は創立23年を迎え、年間を通して全会員を対象にした各種同好会活動や定例懇親会活動を柱に、楽しく活発な活動を展開しています。

さて、会の財政運営は会員の皆様の会費によってまかなわれております。会費は、納入か否かにかかわらず、会員全員に会報・ホームページ・各種案内の送付などに使用されています。会費を原資に当会の運営がなされていることにご理解の上、会の円滑な運営のために、なにとぞ会費納入にご協力くださいますようお願い申し上げます。

会費は1年3,000円の単年度ごとのお振込み方式に変更になりました。お手数をおかけしことに恐縮ですが、事情ご賢察の上格段のご配慮をいただきたく何卒よろしくお願い申し上げます。

前納方式は取り扱いを中止しましたが、これまで前納された方におかれましては、振込みされた年度まで有効とさせていただきます。

銀行振込ご利用の場合は、下記までお振込み願います。

○三井住友銀行阿佐ヶ谷支店
普通預金 7459559
口座名 白門48会 会計 佐藤 豊
(ハクモンヨンハチカイカイケイ サウユタカ)

学員会ニューズ

年次支部ニューズ第15号発行

『年次支部ニューズ第15号』が11月8日に発行されました。特集として、当会佐藤幹事長が年次支部協議会広報部長として酒井総長にインタビューをした記事が掲載されています。また、オンラインで行われたホームカミングデーの番組表や動画コンテンツも紹介されています。



女性白門会50周年記念誌発行

四八会の仲間が多く在籍する中央大学女性白門会(植野妙子会長)が50周年の節目を迎え、この度記念誌『はばたく女性』を発行しました。

巻頭には植野会長の挨拶、酒井総長も祝辞を寄せているほか、四八会の仲間である幹事長の針谷順子さん、総務担当幹事の飯塚恭子さんや古澤史子会員の寄稿も掲載されています。



女性白門会50周年記念誌

ご質問は下記まで



白門48会
連絡先

幹事長 佐藤 愛子

住所: 東京都八王子市東中野228-1101

FAX: 042-679-3329

携帯電話: 090-4098-7379

Eメール: ai-mimo.310.dm@amber.plala.or.jp